

競馬がますます  
楽しくなる

続 ファンにやさしい

# 馬学講座

第34回

## 輸送が競走馬に与える影響について③

講師

大村一さん  
JRA競走馬総合研究所



案内人：辻谷秋人  
text by Akihito Tsujiya

長時間移動の緊張から回復するのはどのくらい？

馬の輸送について、その3回目である。引き続き、JRA競走馬総合研究所の大村一さんが、実際にベルギーから日本までの輸送に同行して行った調査を元にお話を伺うことにしよう。

大村さんの調査で、航空機という手段自体は、馬運車による陸上輸送よりもむしろ馬への負担が少ないことがわかった。騒音も大きくなく、加速や減速、それにカーブも少なく、排気ガスなどによる空気の汚染も少ないために、馬に与えるストレスも少なくすむというわけである。とはいえヨーロッパから日本までの長距離、長時間の移動である。人間でも相当に疲れる長旅であるから、馬にも負担はかかっているのではないかと思われる。「もちろん到着直後は緊張も疲労もあるでしょうが、それがどのくらいで回復するものなのか、到着後の心拍数の変化を調べました」

それが図1である。日本到着直後は毎分50回近い心拍数だったが、時間の経過とともに下がっている。そして20〜24時間後には通常の心拍数まで回復した。つ

まり、体調回復のひとつの目安が24時間ということになる。

人間にはおきる時差ボケ。馬はならないのか？

しかし、もうひとつ気になるのが、ヨーロッパと日本の時差である。馬には時差ボケはないのだろうか。

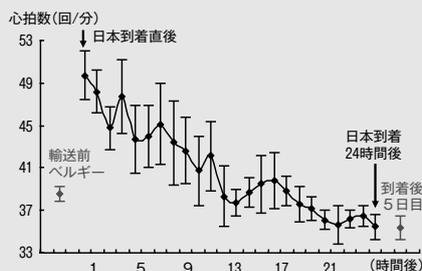
これについて大村さんは「よくわからない」という。

「ただ、馬は昼と夜とをはっきり認識しています。夜中の12時から3時くらいは横になって眠りますから、体内時計を持っているのは間違いありません。ですから、時差ボケがあってもおかしくはないと思います」

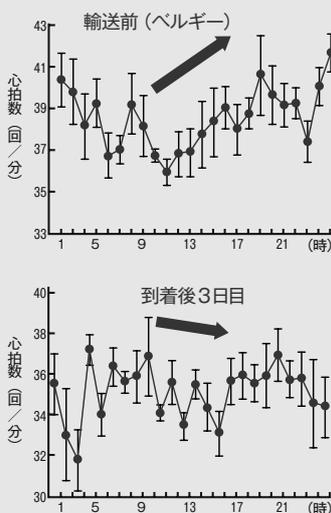
馬が体内時計を持っていることは、心拍数の変化からもわかるのだそうだ。

「通常、馬の心拍数には一日の中での変動パターンがあります。午前中に低く、そこから午後にかけて上昇する傾向があるんです。ところが、ベルギーから輸送した馬の日本到着後は、この変動パターンがみられませんでした(図2)。しかしそれも5日後になると、輸送前と同じ、午後

【図1】日本到着後の心拍数の変化



【図2】輸送前後の心拍数の変化



にかけて心拍数が上がっていく傾向が見られるようになりました」  
心拍数の変動パターンが崩れていることが、そのまま時差ボケということにはならないだろうが、馬の状態が完全に輸送前と同じに戻るには、5日程度の時間は必要になるようだ。  
しかし、もっと単純に「夜中に横になって眠るかどうか」で、時差ボケの有無はわからないのだろうか。  
「馬の場合、時差とは関係なく、環境が変わっただけで横にならないことがあるので、それだけでは判断できないですね」  
輸送とは直接関係ないことになってし

まうのだが、その環境の変化についてもうひとつ大村さんに聞いてみた。ここは以前来たことがある、と馬はわかるのだろうか。例えば1年前に来た場所だということがわかれば、落ち着いて過ごせるのだろうか。つまり、2年連続の凱旋門賞挑戦なら2年目の方がいい、といったことはあるのだろうかということである。「それについては、場所よりむしろ人間の影響が大きいのではないのでしょうか。一緒にいる人間が初めての経験で不安に感じていると、その不安が馬に伝染します。人間が慣れて落ち着いていけば、馬も落ち着いて過ごせると思います」